

課題及び基本方針の整理

海津市公共交通の現状

【人口動態】

- 今後、海津市では人口が減少
- 一部地域を除き低密度に分布

【流動】

- 日常生活にて市外への流動が多い
－特に吉里・東江・大江・西江・石津では、愛知県や三重県との流動が多い

【養老鉄道の現状】

- 揖斐川東岸からも一定の利用
－その際の利用は車の送迎が主体で、P&R 拡充の要望もあり

【定時定路線バスの現状】

- 海津市役所以南の区間は利用が少ないが、運行間隔が短いケースあり
- 駒野・石津での待ち時間が長い
- コミュニティバスと名阪近鉄バスの今尾停留所が離れている

【デマンド交通の現状】

- 特定利用者の先行予約により、他の市民の予約が取りづらい状況
- 税金による負担額が大きい

【その他】

- 市民の公共交通に対する満足度が低い
- 市民から、「住民主導の移動手段確保」「社協との連携」の意見あり

海津市公共交通の課題

【課題Ⅰ】 利便性と効率性の両立

- 今後の人口減少、財政状況を踏まえると現状サービスの維持は難しい
－より一層の効率化が必要
- 市民が満遍なくサービスを受けられるために、既存交通機関のサービスシステムの見直しが必要

【その他社会情勢】

- 深刻な運転手不足
- 情報通信技術（ICT）の進展

【課題Ⅱ】 関係機関との連携強化

- 「養老鉄道と定時定路線バス」「養老鉄道と私的交通手段」「名阪近鉄バスとコミュニティバス」との連携が不十分
- 岐阜県他自治体に比べ、愛知県・三重県自治体との連携が不十分
- 福祉等他施策との連携が不十分

【課題Ⅲ】

住民の公共交通施策への積極関与

- 行政任せではなく、住民が主体的に公共交通に係るための環境整備

【総合計画より】

- 協働による自主的・自律的なまちづくりを掲げている

基本的な方針

【基本方針Ⅰ】

持続可能性を考慮した公共交通網の構築

- 移動ニーズに対応しつつ、将来の人口減少を踏まえ、サービスの再構築を実施
- 個々の交通手段の役割を明確化
－多様な利用が考えられる交通と特定の移動目的のための交通に分類
- 移動手段の確保だけでなく、積極的かつ効率的な情報提供を実施

【基本方針Ⅱ】

関係者が一体となった公共交通網の構築

- 交通機関どうしの連携強化をはかるため、交通結節点を充実
－ダイヤの連携、待合環境整備等
- 桑名市、愛西市等との連携
- 福祉等他施策を見据えた移動手段の確保

【基本方針Ⅲ】

住民が主体的に参画するための仕組みの構築

- 市民が積極的に望ましい交通手段を選択できるための環境整備
- 住民主導による移動手段の確保